

万葉集関連情報検索システム 「万葉百科」公開について

井上さやか
阪口 由佳

万葉文化館は、令和5年3月より万葉集関連情報検索システム「万葉百科」をインターネットにて公開しました。万葉百科とは、『万葉集』全20巻の漢字本文、読み下し文、現代語訳などのテキストデータをはじめ、人物名や詠まれた動植物、地名など関連する情報をデータベース化した総合情報システムです。また、万葉日本画をはじめとする当館の美術品・貴重な古典籍・『万葉集』関連図書の所蔵情報や、全国の万葉歌碑の情報などもあわせて収録しています。

お好きな地名や思いついた言葉から検索できるキーワード検索、歌番号検索、巻1から順にご覧いただける巻番号検索、時代や部立(雑歌・相聞・挽歌)などを組み合わせた詳細検索などを備え、さまざまな情報を横断して簡単に検索することもできます。

【データベースに納められている情報について】(2023年2月24日現在)

①『万葉集』テキストデータ

万葉集全歌の漢字本文、読み下し文、よみ、現代語訳(部立、標目、題詞、左注などを含む)

②『万葉集』に関する人物や事物に関する情報

歌人情報(775件)、故地情報(2224件)、動植物情報(386件)、全国歌碑情報(2011件)

③当館所蔵美術品・書籍等の情報

美術品(701件)、研究書および一般書(18738件)、古典籍等(310件)

【凡例】

『万葉集』のテキストデータについては西本願寺本を底本とした。原則として中西進『万葉集 全訳原文付』(一)～(四)(講談社文庫1978年～1983年)および『万葉集事典』(講談社文庫1985年)を基にし、以下も参照し改訂した。

小島憲之・木下正俊・東野治之 新編日本古典文学全集『万葉集』小学館 1994～1996年

木下正俊『万葉集 CD-ROM版』塙書房 2001年

漢字本文中の漢字は底本に従いつつ新字体に近い字形を主とし、読み下し文では意味を重視して統一をはかった。割注は漢字本文、読み下し文とも一行書きとして上下を〔〕で囲んだ。読み下し文は新字体・旧かなづかいにより、現代語訳は新かなづかいを用いた。人名の見出し語は万葉集中の通称を原則とし、旧かなづかいの50音順に挙げたが、新かなづかいを併記したところがある。

歌データは井上さやか企画・研究係長と阪口由佳主任研究員が担当、歌人データは竹内亮主任研究員が担当した。所蔵美術品データは染田英美子主任学芸員と西田彩乃展覧会事業アドバイザーが担当、所蔵図書データは奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室が担当した。古典籍等データは奈良県立万葉文化館企画・研究係が担当した。

※本事業は『令和4年度 文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業』(Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2022)の補助金を受けました。

万葉集関連情報検索システム 万葉百科

万葉百科は、さまざまな情報を横断して簡単に検索できるサービスです。

- 万葉歌や歌人
- 当館所蔵美術品
- 全国万葉歌碑
- 当館所蔵書籍

万葉百科で探す 🔍

令和5年3月よりインターネット公開開始

<https://manyo-hyakka.pref.nara.jp>

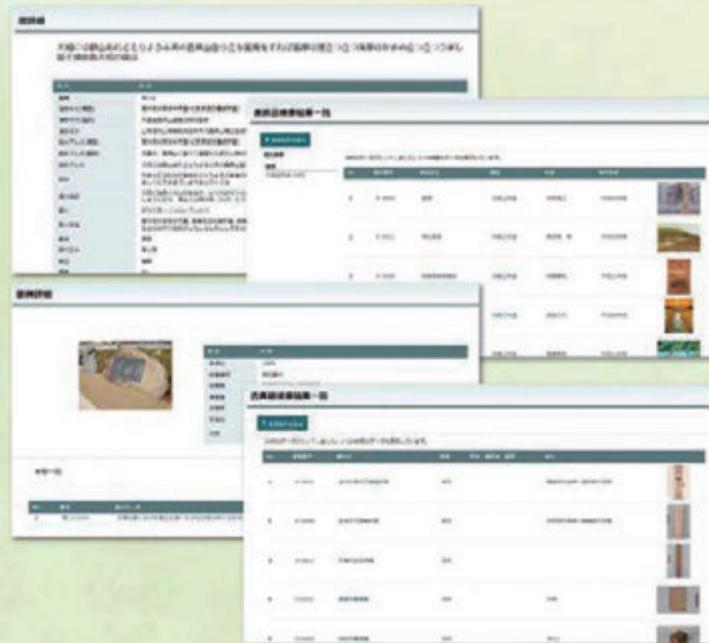
当館のホームページからお入りいただけます。



① 検索



② 「万葉集」に関連する情報がすぐに見つかる！



「万葉集」全20巻の漢字本文、読み下し文、現代語訳などのテキストデータをはじめ、人物名や詠まれた動植物、地名など関連する情報をデータベース化した総合情報システムです。また、万葉日本画をはじめとする当館の美術品・「万葉集」などの貴重な古典籍・「万葉集」関連図書の所蔵情報や、全国の万葉歌碑の情報などもあわせて収録しています。